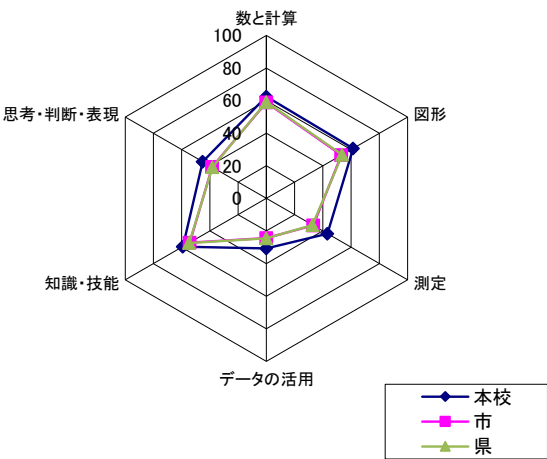


宇都宮市立桜小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	58.9	59.2
	図形	61.4	53.0	53.7
	測定	43.2	33.1	32.6
	データの活用	30.7	24.4	24.6
観点	知識・技能	59.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	45.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○数直線上に示された分数を読み取る問題では、県の平均正答率を5.7ポイント上回った。 ○整数-小数の計算では、県の平均正答率を4.3ポイント上回った。 ●3けた+3けた=4けたの計算ができるかどうか問う問題では、県の平均正答率を7.7ポイント下回った。	・整数と小数の計算では、計算問題に繰り返し取り組み、位を揃えて計算することへの意識を高め、計算の正確性が向上するようにする。 ・大きな数の計算では、見直しや確かめ算に取り組む機会を繰り返し設けることで、繰り上がりの見落としなどのミスを減らし、正確な解答を導き出せるよう指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを捉えることができるかどうかを問う問題では、県の平均正答率を6.2ポイント上回った。 ○円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、県の平均正答率を7.7ポイント上回った。	・コンパスを使う問題では、習熟が不十分な児童もいるためコンパスの使い方を例示してから学習課題に取り組ませることを繰り返すことにより、作図の仕方への習熟を図る。 ・図や表を用いたり、既習事項を生かしたりしながら、問題を自力で解決できるように、スモールステップで指導していく。
測定	平均正答率は、市の平均より高い。 ○地図から道のりを読み取って、その差を求める問題では、県の平均正答率を22ポイント上回った。 ○身近な物の重さについておよその見当を付けることができるかを問う問題では、県の平均正答率を7.3ポイント上回った。	・時刻と時間の概念の習熟をより図るために、具体物操作を通して視覚的に捉えさせたり、日常の具体的な場面を例示したりして、応用的な問題にも対応できるよう、指導していく。 ・道のりと距離の概念について視覚的に捉えさせたり、日常の具体的な場面を例示したりして、実感的に捉えさせる指導を行っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○棒グラフを読み取り、二番目に多い落し物の種類を答える問題では、県の平均を14.1ポイント上回った。 ●目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて、数の比べ方を説明することができるかどうかを問う問題では、県の平均正答率を5.2ポイント下回った。	・棒グラフの基本的な読み取りに関しては、算数だけではなく、他の教科においても、数値を読み取ったり、変化の傾向を捉えたりしながら学習課題に取り組ませるなど、棒グラフやその他のグラフに触れる機会を大切に扱うようにし、グラフに対する習熟を図っていく。